

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校は、洋野町の南西側で旧大野村の中心部に位置している。沿岸部からは離れた山側であるため、海は児童にとって身近なものではなく、東日本大震災が発生したときに現在の3年児童が生まれたばかりであった。東日本大震災については、身近な問題として捉えられておらず、その記憶は薄れつつある。

このような経緯を踏まえ、「いわての復興教育推進事業（震災学習列車活用スクール）」を活用し、東日本大震災について見聞し、体験を通して学習をすることで、防災について身近なこととして捉えられるようにし、復興について深い学びができるようにしたいと考える。

II 取組の概要

- 1 実施学年 第3学年17名
- 2 ねらい

東日本大震災の被災地を訪れ、震災時の状況や復興の状況を学習することを通して、防災・復興への意識を高める。

3 取組の内容

- ア 事前学習
- イ 震災学習列車
- ウ 語り部の話しを聞く
- エ 事後学習

4 具体的な取組

- ア 事前学習
 - ・ 副読本を活用し、震災や災害について学んだ。
 - ・ タブレット端末を使い、グループで東日本大震災について調べた。
 - ・ 新聞記事の「東日本大震災特集」を活用し、震災の様子や復興の歩みを調べた。

イ 震災学習列車活用スクール

- ① 震災学習列車乗車体験（久慈駅～田野畑駅）

三陸鉄道の方から、被害の状況や、明かりがつかない暗闇、連絡手段がなくなることなど当時の様子や、復興にむけての思いなどを聞くことができた。車窓からの景色を見ながら三陸鉄道の方の話しを聞き、自然災害の脅威や、復興への努力について学ぶことができた。



【震災学習列車：三陸鉄道の方の話しを聞く】

- ② 語り部の話しを聞く（田野畑）

震災当時の写真と現地の様子を見ながら、津波の様子や恐ろしさ、すぐに高台へ避難すること（津波てんでんこ）についてのお話を聞いた。

自然災害の恐ろしさ、自分の命を守ることが大切であることを学ぶことができた。



【語り部：震災当時の話しを聞く】

ウ 事後学習

① 壁新聞

東日本大震災について学んだことや、インターネットなどで調べて分かったことを壁新聞にまとめた。



【壁新聞：掲示】

② 学習発表会

震災学習列車活用スクールで学んだことを発表した。学級内で学習したことを共有したり、見ている人に伝えたいことは何かを話し合ったりすることができた。



【学習発表会の劇で発表】

③ 大野中学校区での実践交流

震災学習列車活用スクールでの実践を大野中学校区の各小中学校に掲示して交流した。



【大野中学校区での実践交流】

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 東日本大震災は、3年生児童が生まれたばかりの頃のことである。震災学習列車に乗り説明を受けながら被災地を実際に見たり、語り部から現地で震災の様子や復興への歩みについての話を聞くことで、防災について自分たちの問題として捉え、自分たちにできることを考えることができた。
- (2) 壁新聞にまとめ、学習発表会の劇で表現する取り組みを通し、伝えることを意識して学習したことについて深く考えることができた。

2 課題

- (1) 発達段階に応じた系統性や、他教科との関連などを考慮して年間指導計画に位置づけるなど、計画的に行う必要がある。
- (2) 震災の記憶が薄れていく中で、小学校で行う復興教育の在り方を検討していく。